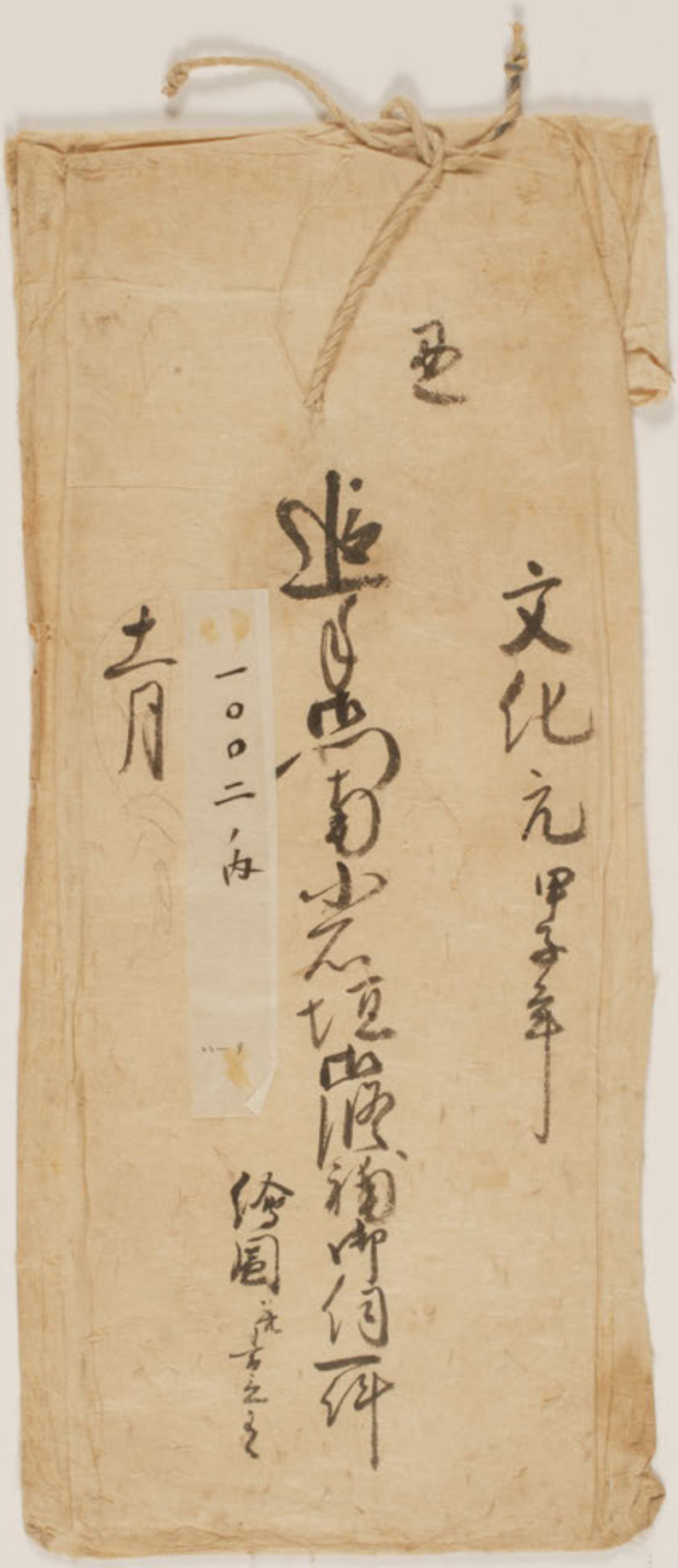

文化元甲子年

五

北嶋南山之垣出張補御伺一件

一〇〇二ノ丙

絵図ハ此方書之候

十一月

文化元甲子年八月

御城追手南之方石垣崩

修補請願一件

山吉郎 印

文化元甲子年

此在所当春以来雨繁く六月十三日
同月廿二日洪水ニ而諸く破損多四月
廿二日洪水之節大堤切込川之義刈
東島居屋敷裏小之垣ニ而横江間ニ而
武間緩衛し　御城郭ニ而見えし
由得猶口同候ニてとも右湖方義懸（中嶋より）

一　此出来所　御城絵図ニ被調来

一　去々御合之儀（清作ハ当番済ニ付　中村作圓用心之）

一　両町之儀（下役ハ当番済之間御用之段　口上書相之段申上書出ハ分　書付未出候ニ付　下地之段）

八月廿一日

一　被損候由兼而清閑寺牧野備前守殿ニ[illegible]

右者当番之清書之内ニ居役部屋

前之通申談ニ而大概之事

八月廿一日

一　表向[illegible]佐渡田中玄蕃殿[illegible]

中当番居衆以手紙[illegible]御尋之上

[illegible]来候ニ付吉兆殿出京日限ニ

[illegible]殿中[illegible]夕方ハ[illegible]

小隊之内撒兵并貴之事ニ付返答之段承ル

八月廿二日

一 田中吉蔵抱右同 田中吉蔵儀重之
御城郭石垣崩所損猶出新規之儀
中之通書付を以 准先様御懇存候趣ニ
御役被仰付 [illegible]人 對談 出陣 [illegible]
安田源紀人 當年ニ 割[illegible]

一 中途ニ而私共事以而達ニ茂候ハハ差支
儀ニ付[illegible]相聞候得共[illegible]
當[illegible]清[illegible]當[illegible]
[illegible]

一 太席ニ而[illegible]
[illegible]郎 被揆[illegible]
[illegible] 被揆[illegible]
[illegible]
丁寧ニ[illegible]
被揆[illegible]

御示ハ、重ノ大御所計議當方え
これより御沙汰之上御附御用掛被仰
付候ニ付右御返答御請書ニ調ニ而御渡候
事

八月廿二日

一 出羽守殿戸田采女正殿ゟ以御當番居殿え
御勤下之御沙汰ニ御座候書入御覧置候
法用書取方ニ付差返し候事

八月廿四日

一 戸田殿ゟ昨日之御答書ニ付申入
来ル十五日出府見合可申旨御聞済之事
被申候此方ゟ右御用人へ申聞ル事

八月廿六日

一 多賀戸田殿ゟ為右衛門来御當番居合ニ
而御達之儀ニ付御沙汰有之候
致度御申候而御用向申聞候事

三ヶ所書面ニ而外郭之所猶伺之絵図并
小絵図共四通ニ而御用番御月番
窺絵図ハ三枚ニ而四通ハ御月番御方閲
絵図并中書付ハ五枚都合拾壱枚

八月廿七日

一 御用番牧野備前守殿江
織部出候処右絵図相勤候由ニ御座候

絵図之内書付

肥後国球麻城石垣破損之覚

追手門南之方塀下石垣壱ヶ所
高弐間横四間崩申候

右者川之通当月洪水之節
崩候ニ付以連々如元修補申付度
奉願候以上

文化元子年八月
日付無之　御名

絵図折込之書付

肥後国球麻城修補窺絵図

右絵図縫目ニ印、但絵図袋え
両丸紙之袋ノ口紙ニ張り、自伊行候
諸方ニ折之　御名有之

右紙ニ包候清書之書面

奥書切
包

私在所肥後国球麻城追手門
南之方堀下石垣壱ヶ所
崩候ニ付、如元修補仕度
候、絵図奉窺候、以上

八月
（日付有之）

相良志摩守

宛名之儀不相知ニ付　御名

宛所之御人
（口上書ニ紙ニ）名前之筆之追而雑形

この儀者右ニ付文元盛申候

一 戸田采女正殿家来衆切米取之者共
牧野駿河守殿家来衆江相渡申候

一 [illegible]衆中[illegible]用人中之[illegible]
大目付衆ニ相渡申候

八月廿九日

一 夕方牧野備前守殿より御用之儀被仰聞候
以切紙御通達之儀[illegible]

壱人家来[illegible]中[illegible]毎度[illegible]
即刻[illegible]家来[illegible]一[illegible]
[illegible]
[illegible]

御切紙
此通一ツ書写候

一 右毎度[illegible]
[illegible]
戸田[illegible]
[illegible]

八月晦日

一 昨夕従岩常ゟ御呼ニ付、御用番牧野
備前守様御宅江清絵図并書付差出候処

一 清絵図ニ被仰渡書付差下
絵図之通

此日附ニ而 御老中連名御書付ニ而
御下知之筆 然ル書付并絵図被返

一 御老中様、此絵図三枚え被成御書付
月日附御書判銘々之清絵図返

一 清絵図ニ相添候口上書

（奉書認）
口上

私在所肥後国球麻城追手門
南之方櫓下石垣壱ヶ所
崩候付、追々如元修補申付度

江繪図面願ニ付宜様ニ御済候様
下ニ存候以上

八月晦日　　相良志摩守

右之趣被仰付候上ニ御届

一　安藤出雲守殿ニ而承候而相済申候由
出羅殿ニ而

一　奥平美作殿御用人ニ申、奥平美作殿へ申達候

九月廿日

一　牧野備前守殿ニ而当番之居所ニ
切紙を以御徒目付書付
差出候所御目付中被申候間
右申来候毎年出置書付差出候

九月廿二日

一　牧野讃岐守殿ニ出家被申候間申遣ス

渡邊人之助差出候處
以上
肥後国球麻城追手門
南之方塀下石垣
壱ヶ所崩候ニ付而修補
之事絵図朱引之通
縄張之通ニ而願之通遂
如元ニ可被申付候許之

文化元子
九月廿一日

牧野備前守
忠精 判

青山下野守
忠裕 判

土井大炊頭
利厚 判

戸田采女正
氏教 判

相良志摩守殿

右御請

御奉書謹而見仕候私居城
肥後国球麻城追手門南之方
塀下石垣壱ヶ所崩候付
修補之儀注絵図面奉願候処
以連〻如元可申付旨被
仰出之難有仕合奉存候
右御請為可申上捧使札候
恐惶謹言

九月廿二日
御名
御実名御判

戸田采女正殿
牧野備前守殿
土井大炊頭殿
青山下野守殿
　　参人々御中

右之使者ニ差出し

一 此節為御礼牧野殿江御出勤し

御内書為御返事写

私在所琉球城石垣崩
修補之儀絵図之通被仰付
畏入候右之旨被成下御奉書
難有仕合存候為御禮
宜任候
　九月廿二日　御名

右書物切ニ而有之

一 干鯛 一折
一 御樽代 三百疋
田中吉蔵殿
右之家初分以く世話茂有之候
御懸りニ付為挨拶ニ遣之此度
御留守居勤之

一 金子弐百疋
右同人
中島雄吉
右之御用被掛合候ニ付段
世話ニ為挨拶ニ遣之